

中北.com

地域教育情報紙

中北教育事務所
地域教育支援スタッフ

チュウホクドットコム

TEL 0551-23-3046

FAX 0551-23-3013

no
5

中北の地域社会 (COMmunity) の心の交流 (COMmunication) をめざします

山梨の「よさ」を再認識して



中北教育事務所
副所長 輿水清司

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

皆様方におかれましては、希望に満ちた新しい年をお迎えのこととご推察申し上げます。

また、日頃より、中北教育事務所の地域教育関連事業へのご理解とご協力に厚く感謝いたします。更に、本年も引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

さて、昨年は「新やまなしの教育振興プラン」が策定され、今後5年間の基本計画が示されました。そこでは、教育を取り巻く様々な社会状況として、いくつかの課題が指摘されるとともに、これからの教育に求められることが記されています。そのうちの一つ「山梨の「よさ」を再認識して」では、「山梨の「よさ」を生かしながら子どもたちを育て、次世代に山梨の「よさ」を受け継いでいくことが必要」と示しています。「少子化・高齢化の進行」「グローバル化の進行」「知識基盤社会の到来」「地球規模の課題」等、時代の変化に伴い、対応していかなければならない喫緊の課題もある一方で、山梨の「よさ」を再認識し、継承していくことは、今の地域活性化の気運の高まりとともに地方の今後の在り方を模索していく上で、重要な解決策のカギを握っているのではないかと思います。

今年度の全国学力学習状況調査(小6・中3対象)の質問紙調査の結果において、「今住んでいる地域の行事に参加していますか」に対し、肯定的な回答をした児童は本県79.4%(全国68.0%)、生徒は本県60.6%(全国43.5%)、「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」に対し、肯定的な回答をした児童は本県67.7%(全国62.9%)、生徒は本県62.8%(全国55.6%)、「将来の夢や目標を持っていますか」に対し、肯定的な回答をした児童は本県88.4%(全国86.7%)、生徒は本県75.0%(全国71.4%)、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対し、肯定的な回答をした児童は本県95.1%(全国94.0%)、生徒は本県95.7%(全国94.0%)というように、本県児童生徒の社会に関わる意識は比較的高い状況にあります。これは、子どもたちを取り巻く家庭、地域、学校などの社会環境や教育環境などが育んできている結果であり、山梨の「よさ」が今の子どもたちに継承されている結果であると言えるのではないのでしょうか。

中北教育事務所としましても、「新やまなしの教育振興プラン」を受け、山梨の「よさ」、地域の「よさ」を再認識するとともに、現状と課題を県民サイド、地域住民サイドに立ち、分析し、地域の実態に応じた生涯学習の場の設定や情報提供のために、そして、地域ぐるみで子どもたちの成長を支えるために、また、少子・高齢社会の中での共生の意識を深めるために、地域教育支援スタッフを中心に、必要とされていること、できることを考えていかなければならないと感じております。

結びに、今年は未(ひつじ)年です。未は、群れをなすこところから「家族の安泰」を表すとされ、いつまでも「平和」に暮らすことを意味していると言われているそうです。皆様方にとりまして、この1年が明るく幸多き年となりますようご祈念し、新春のご挨拶とさせていただきます。

山梨県社会教育研究大会

平成26年12月12日に山梨県社会教育研究大会が甲斐市敷島総合文化会館大ホールにて開催されました。当日は200名近い参加者のもと、北海道佐呂間町より社会教育委員長・副委員長をお招きして、基調講演をいただくほか、3つの事例発表が行われました。ここでは、基調講演と、中央市・甲府市からの発表を紹介致します。

「人づくり・地域づくりと社会教育」

～佐呂間町社会教育委員のとりくみ～

佐呂間町社会教育委員長 船木 耕二 氏
同 副委員長 真如 智子 氏



＜＜貴方は社会教育委員として、楽しいですか？

やりがいがありますか？

そこで、貴方は成長していますか？＞＞

この問いかけで始まった基調講演は、参加者の自省を促すと共に、活動への意欲を与えてくれるものでした。平成13年より同町の委員長を務めている船木氏は、委員18名の意識改革から始めたそうです。

手弁当で研修に出かける委員たちに絆されて、行政も予算をつけてくれるなど、協力が得られていきました。

活動も、『エビを喰う会』や、『サロマでしゃべる場』など、独特の活動を企画してきました。若者を巻き込み、

その若者たちが、成長して地元に戻り、社会教育委員になっているそうです。

社会教育委員とは

1. 自らが学習者であり、そこで成長する者である。
2. 主体性を持ち、活動する者である。
3. 委員会が力を持ち、いい意味での行政に対する圧力団体になる。

と船木氏には、これからの社会教育委員に求められる姿を語っていただきました。

中央市社会教育委員



「人づくり・地域づくりを目指して」

中央市教育委員会 生涯学習課

小宮山正明 氏

中央市は、社会教育委員の活動を社会教育計画に基づき、評価・検討を行い、新年度の計画に活かしている。目標を4つにまとめ、以下のように評価・検討を行っている。

生涯学習事業の充実について 布ぞうり教室・韓国料理教室・筆ペン教室等数多くの教室を実践しており、どれも好評であり継続していきたい。

文化振興(文化財)について 広報への掲載、定期的な企画展等また小学校への文化財説明を行い、関心・向上に努めている。

青少年事業について 子どもクラブの球技大会の種目をドッジボールに変更した結果、多くの参加が得られた。

図書館事業について 3つの図書館事業を積極的に進めている。新入生対象のブックスタート事業、中学卒業生対象のブックプレゼント事業は読書の習慣づけと啓発として好評であった。さらに特徴ある図書館づくりの要望を行った。

甲府市社会教育委員

「子どもたちを中心とした地域づくり」

～放課後子ども教室の活動から～

みんなの居場所「羽黒ほっとサロン」代表

甲府市社会教育委員 塩崎 洋子 氏

甲府市教育委員会 生涯学習課 林 さち 氏



安全・安心・居場所づくりから始まった「放課後子ども教室」。～異世代の交流をとおして学び、人間力を育む～を活動

理念に、思いやりの心・環境学習・心の育成・コミュニケーションの育成等、活動を始めてから10年になる。「羽黒ほっとサロン」は平成16年以来、羽黒小学校の空き教室を使用し、年間200日以上開催。ボランティア指導者45名のもと、登録児童22名が在籍する。米・野菜づくりや「花いっぱい活動」、NPOと連携してマイバックづくり等の活動を行っている。

異年齢の交流から生きた力を付け、子どもが変わることで親の見識が変わり、家庭教育力の向上がみられた。

H26年度 子育て支援リーダー・ステップアップ講座 無事に終了しました

子育て支援リーダー・ステップアップ講座修了式



平成26年10月24日(金)に山梨県立大にて、平成26年度子育て支援リーダー・ステップアップ講座の修了式が行われ、本年度の受講生32名に社会教育課の相河課長より修了証が手渡されました。

山梨県立大学の高野牧子教授より、「平成27年度より始まる『子ども・子育て新支援制度』のリーダーとなれるよう、つながりを大切にして、学び続ける姿勢を忘れないで欲しい。」と本年度の講座全体を通じての講評をいただき、この講座で学んだことをこれから活かすべく、気持ちを新たにしていました。

グループ自主研究

現代の子育てを取り巻く諸問題を知る講座の他に、5～6人の班ごとにテーマを設定し、調査・探求・演習といった支援リーダーとしての一步を踏み出す自主研究もカリキュラムに組み込まれています。



本年度、第2班では、フィーカ(茶話会)を通じて子育て中の母親に寄り添う実習を行いました。韮崎市のニコリの和室に6組の母子を集め、1才未満児へのスキンシップの取り方を伝えたり、子育てのための情報交換をしたりと、講座で学んだスキルの演習を行いました。全体発表会では、山梨県立大の池田政子特任教授より、「学んだことを実践し、それを評

価・考察し、展望へとつなげ、『研究』としての筋がきちんとしている。」との評価をいただきました。



子育て支援の重要性

人口減少が日本社会の大きな問題として取りざたされる中、子育て支援はその解決のための一つ的手段と考えられています。それぞれの市町でも、『子ども・子育て新支援制度』が始まり、子育て支援者の、特にリーダーの知識・技術を育てるこの講座の有用性は、ますます高くなっていくと思われます。

本年度の修了者32名の所属内訳は下図のとおりです。

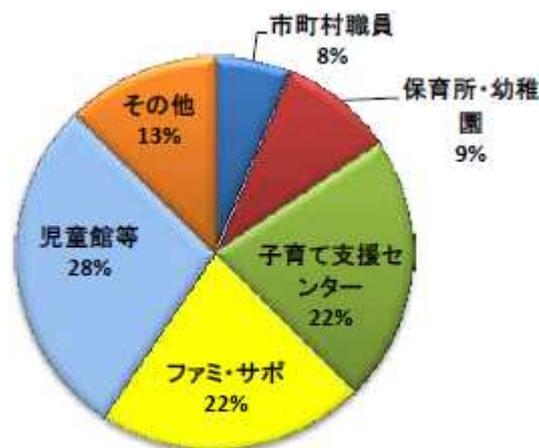


図 H26年度修了者の所属内訳

それぞれが忙しい中、職場や仲間の理解を得て全10回の講座に参加してくださいました。講師の先生方も運営側も、その思いに応えるべく、密度の高い講座運営がされていました。

(詳細は山梨県のHP「医療・健康・福祉 > 子育て・少子化対策 > 子育て支援 > 子育て情報 > 子育て支援リーダー・ステップアップ講座」よりご覧ください。)

峡中社会教育の会 ~ 親子しめ縄づくり ~



12月21日(日)に、双葉東小学校体育館で、峡中地区社会教育の会主催の「親子しめ縄づくり」が開かれ、小学校4年生以上の24組の親子がしめ縄づくりに挑戦しました。講師の東城先生と峡中地区社会教育の会会員の指導の下、双葉東小学校の森本校長先生をはじめ、先生方にもお手伝いをいただきながら、しめ縄

づくりを体験しました。小学生はもちろん、お父さん・お母さんにとっても、わらで縄をなうのはとても難しい作業でした。店で売っているのと同じような正月飾りとはいきませんでした。それでも、「手作り」のしめ縄に参加者は大満足の様子で、「今度の正月はいつもと違う!」と大喜びでした。外は寒かったですが、体育館の中は、気持ち温くなる師走の1日でした。



高校生の文化活動紹介

山梨県高等学校芸術文化祭

高校生の文化の祭典、「山梨県高等学校芸術文化祭」が本年度も開催されました。

11月6日(木)には、メインとなるパレードとグランドステージが甲府市で実施されました。

パレードには県内の20の高校より500人以上が参加し、山梨県庁の防災新館前で出発行事を行った後、平和通りを中心に、甲府市内を行進しました。なかでも、マーチングバンド、バトントワリング専門部より参加した各校の部員たちは、ひときわ沿道の人たちの注目を集めていました。

午後からは、コラニー文化ホールにてグランドステージが行われました。司会・進行、放送など行事は、すべて高校生自身の手によって行われ、県内の高校生による質の高い自主・自立を見ることができました。このような課外活動をとおして、未来を拓く『やまなし』の人づくりは行われています。



農林高等学校「収穫祭」 宇宙大豆みそ試食

11月8日(土)には農林高校で収穫祭が開かれました。農産物の直売を求めて多くの方が来場しました。会場では、システム園芸科による「宇宙大豆からつくられた味噌」の試食会も行われ、珍しさもあって、人気を集めていました。



穴山地区のナカセンリ種大豆を、宇宙ステーション「きぼう」に送り、地球に帰った後の生育状況を調べる実験に基づいたものでした。少量の大豆を、3・4代目で味噌を作れるだけの量に増やし、今回の試食にこぎ着けたそうです。

わくわくサイエンスin 巨摩高



巨摩高校で12月13日(土)に、小中学生を対象とした科学実験イベントが行われました。これはSSH事業にともなって、毎年この時期に開催されているもので、今年で3回

目を迎えます。近隣の小中学校から100人以上の子どもと保護者が訪れ、科学の楽しさを体験する機会となりました。巨摩高校の生徒が11のブースを設け、先生役となって空気圧や静電気による科学の不思議を紹介すると、参加者たちは目を輝かせて実験に取り組みました。会場のあちこちで子どもたちから「科学っておもしろい」と歓声が上がっていました。

峡中地区・峡北地区 地域教育推進連絡協議会

期 日：平成27年 2月12日(木) 14:00~16:30

テーマ：「いじめから子どもたちを守るために
大人ができること」

- CAPが取り組む「子どもへの暴力防止」を通して -
講 師： 時田 理香 氏 (CAPやまなし代表)

平成26年度 『中北.com』 5

編集・発行 中北教育事務所 地域教育支援

担当 内藤 阿部 野崎

〒407-0024 韮崎市本町4-2-4

電話 0551-23-3046

Fax 0551-23-3013

中北教育事務所のホームページでもご覧になれます。

<http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-ch/index.html>